

血液検査の基準範囲(主要検査項目のみ)

2021.4.1

- 1) 梶川病院で検査している主な項目に関して、基準値を示します。基準範囲とは健康な成人の集団の95%が含まれる範囲を示します。
 2) 施設によって機器・試薬の違いから検査値は多少異なりますし、年齢・食物の摂取や運動などいろいろな条件で変動します。

光仁会 梶川病院 臨床検査科

血球算定検査(血算)				血液を構成する細胞成分です、血球数を調べます。
検査項目	略称	基準範囲(成人)	単位	
白血球数	WBC	3.3~8.6	10 ³ /μl	白血球は、病原微生物などから体を防御するために働き、炎症や感染症の時に増加します。
赤血球数	RBC	男:4.35~5.55 女:3.86~4.92	10 ⁶ /μl	赤血球は組織に酸素の運搬を行っており、血色素(ヘモグロビン)やヘマトクリットは貧血や多血症の判定に用いられます。 赤血球の主成分である血色素(ヘモグロビン)が、基準範囲より少ない場合は貧血、多い場合は多血症と診断されます。
血色素	Hb	男:13.7~16.8 女:11.6~14.8	g/dl	
ヘマトクリット	Ht	男:40.7~50.1 女:35.1~44.4	%	
血小板	PLT	158~348	10 ³ /μl	血小板の役割は止血であり、減少した場合出血しやすくなります。肝機能障害で減少することがあります。

生化学検査				血液を構成する液体成分です。
検査項目	略称	基準範囲(成人)	単位	
肝・胆・膵機能検査				
総蛋白	TP	6.6~8.1	g/dl	血液中に含まれるさまざまな種類の蛋白質の総量値です。
アルブミン	ALB	4.1~5.1	g/dl	蛋白質の中で最も多く含まれます。肝臓の異常・悪性腫瘍や炎症・栄養不足で減少します。
総ビリルビン	T-Bil	0.4~1.5	mg/dl	黄疸(おうだん)の程度を測定します。肝臓や胆道に異常があると増加します。
アルカリフォスファターゼ	ALP(IFCC)	38~113	U/L	肝臓・胆道・骨・胎盤・小腸にある酵素でこれらの障害により上昇します。
乳酸脱水素酵素	LD(IFCC)	124~222	U/L	体内の多くの細胞に存在する酵素で、細胞が壊れると血中に流出します。
コリンエステラーゼ	ChE	男:240~486 女:201~421	U/L	肝細胞で産生する蛋白質で高値は高栄養状態、低値は肝疾患と低栄養状態があります。
アスパギン酸アミノトランスフェラーゼ	AST(GOT)	13~30	U/L	AST・ALTは炎症などによって体の細胞が壊れると血中に流出するため、増え方で障害の程度を知ることができます。 ASTは肝臓だけでなく、筋肉・赤血球にも含まれ、ALTは主に肝臓に含まれます。
アラニンアミノトランスフェラーゼ	ALT(GPT)	男:10~42 女:7~23	U/L	
γ(ガンマ)-グルタミルトランスペプチターゼ	γ-GT	男:13~64 女:9~32	U/L	胆汁の流れ(肝~胆道~腸)に障害を生じると増加します。アルコールの多飲によって増加します。
アミラーゼ	AMY	44~132	U/L	膵臓や唾液腺で作られる酵素です。膵疾患の診断に重要です。
腎機能検査				
尿素窒素	UN	8.0~20.0	mg/dl	尿素窒素・クレアチニンは体で使われた物質の老廃物で、普段は腎臓から濾過され排泄されています。これらは、腎機能が悪化し、排泄されなくなると上昇します。
クレアチニン	CRE	男:0.65~1.07 女:0.46~0.79	mg/dl	
尿酸代謝				
尿酸	UA	男:3.7~7.8 女:2.6~5.5	mg/dl	核酸構成成分のプリン体が分解されて出てきた老廃物です。 痛風や腎臓病・生活習慣病などの検査のため測定します。

生化学検査				血液を構成する液体成分です。
検査項目	略称	基準範囲(成人)	単位	
脂質代謝				
総コレステロール	T-CHO	142~248	mg/dl	細胞核の構成やホルモン生成に不可欠ですが、過多は動脈硬化や心筋梗塞など危険因子です。
中性脂肪	TG	男:40~234 女:30~117	mg/dl	血液の脂肪の一種で、増加すると動脈硬化や心臓病・脳卒中のリスクが高まります。
HDLコレステロール	HDL-CHO	男:38~90 女:48~103	mg/dl	「善玉コレステロール」で血管の壁などに余分に蓄積されたコレステロールを回収する働きがあります。
LDLコレステロール	LDL-CHO	65~163	mg/dl	「悪玉コレステロール」で動脈硬化症の原因となります。
電解質検査				
ナトリウム	Na	138~145	mEq/l	浸透圧の調整などを行っている電解質です。体液水分量の平衡状態を推測できます。
カリウム	K	3.6~4.8	mEq/l	神経の興奮や、体や心臓の筋肉の働きを助け、生命活動の維持調節に重要な電解質です。
クロール	Cl	101~108	mEq/l	ナトリウムとともに、食塩の形で摂取され、浸透圧の調整などを行う電解質です。
カルシウム	Ca	8.8~10.1	mg/dl	カルシウムとリンは密接な関連があり、骨ミネラルの重要な構成成分です。代謝異常で値が変化します。
無機リン	IP	2.7~4.6	mg/dl	
筋(肉)関連酵素				
クレアチンキナーゼ	CK	男:59~248 女:41~153	U/L	心筋や骨格筋に含まれる酵素で、心筋梗塞や・筋肉の障害があると上昇します。
血清鉄検査				
鉄	Fe	40~188	μg/dl	血液中に含まれる鉄です。鉄欠乏性貧血や出血・感染症で減少し、頻回な輸血で鉄過剰となります。
不飽和鉄結合能	UIBC	男:120~310 女:110~390	μg/dl	血清鉄と同時に測定して、貧血や各種の鉄代謝異常をきたす疾患の鑑別診断を行います。

血糖検査				
検査項目	略称	基準範囲(成人)	単位	
血糖(グルコース)	GLU	73~109	mg/dl	一般に血糖として測定されるのはブドウ糖(D-グルコース)で筋肉や脳のエネルギー源です。
ヘモグロビンA1C	HbA1c	4.9~6.0	%	糖尿病治療時で血糖値コントロールの指標となり、過去1~3ヶ月程度の平均血糖値を反映します。
炎症反応検査				
検査項目	略称	基準範囲(成人)	単位	
C反応性蛋白	CRP	0.00~0.14	mg/dl	炎症性病巣の存在や病変の活動性・障害程度を鋭敏に反映する代表的な炎症マーカーです。
腫瘍マーカー				
検査項目	略称	基準範囲(成人)	単位	
前立腺腫瘍マーカー	PSA	4.0以下	ng/dl	前立腺癌の診断と経過観察に非常に有効な腫瘍マーカーです。
癌胎児性抗原	CEA	5.0以下	ng/dl	胎児消化管粘膜と共通の抗原として見出され、様々な癌化に対して高値になります。
ホルモン				
検査項目	略称	基準範囲(成人)	単位	
甲状腺刺激ホルモン	TSH	0.5~5.0	μIU/ml	甲状腺ホルモンの分泌を調整するホルモンで、甲状腺機能を調べるのに用いられます。
遊離サイロキシン	FT4	0.9~1.7	μg/dl	甲状腺機能亢進症で高値、甲状腺機能低下症で低値になります。
心不全マーカー				
検査項目	略称	基準範囲(成人)	単位	
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド	NT-proBNP	125以下	pg/ml	心不全の指標として用いられます。

※JCCLS(日本臨床検査標準協議会)共有基準範囲参照